

「都立高校で予備校の授業」

昨年末、都立高校に関して、こんなニュースが流れた。

東京都教育委員会は来年度、高校生の大学進学を支援するため、民間の予備校や学習塾の講師を都立高校に招いて講習を実施する方針を固めた。生徒の受講費用は都教委が負担する。経済的な事情で十分な受験対策ができず、進学や希望する進路を諦める生徒を減らす狙いがある。講習は放課後や土日、長期休みに実施。受験で配点が高い英語や、苦手な生徒が多い数学を重点的に指導する。今後、実施校や提携する予備校を選定する。新年度予算案に関連経費約1億円を計上する見込み。

昨年度の都立高卒業生の大学（短大含む）進学率は58.5%と前年より2.7ポイント増えたが、過去10年間の進学率は51～55%台にとどまっている。一方、大学入学共通テストは難易度の上昇が指摘されており、昨年度は、全30科目のうち7科目の平均点が過去最低を記録した。予備校が持つ豊富な受験ノウハウを生徒に身につけさせ、進学率を上げたい考えだ。（読売新聞オンライン記事より）

私立高校の中には、目標とする大学に応じてコース制をとり、進学に力を入れている高校もある。さらに放課後の学習の中で、塾講師を招いて講座を開いている高校もある。私立高校にとって、卒業生の進学先がアピールポイントになってしまうのは致し方ないことなのだろう。

都立高校でも塾講師による有料の講習を校内で独自に実施している高校もある。大学進学をめざす生徒にとって、予備校や塾に通う生徒は多い。ある調査によると、高校時代に塾に通った経験は8割を超え、2年生前半までに半数以上の生徒が通い始めている。補習のための塾もあれば、大学進学に特化した塾もあろう。4年前の文部科学省の調査によると、そこでかかる年間平均費用は、公立の高校に通う高校生の場合は約11万円、私立の高校生の場合は約13万円という。上記の方針が実施されれば、都立高校に通う生徒にとって、家庭の負担を一部軽減させることにつながる。高校選びの一つの材料として、知っておいてほしい。

1月6日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 1、4、7、8の数字が書かれたカードが1枚ずつあります。この中から、3枚をとって3桁の数字を作ります。全部で何通りの数字ができますか。また、そのすべての数字の平均を求めなさい。